

ハザードマップ

このマップは、ため池が決壊した場合にどのような被害となるか知るために、ため池すべての貯水量が流出する状況を想定しています。

このマップは、浸水の深さを色で示しています。表示されている範囲外でも、被害が発生する可能性がありますので、注意が必要です。



西葉断面想定位置圖

※西葉断層については、
鹿島市地域防災計画
(令和元年改正版)
に基づいて記載して
います。
実際の断層位置と異
なる場合があります。

城角池・七箱池決壊後60分

天子神社

福泉寺

城角池・七箱池決壊後30分

鹿島市産業活性化施設
海道(みち)しるべ

—オレンジ海道

城角池決壊後10分

城角池決壊後5分

七箱池決壊後10分

七箱池決壊後5分

笹原ため池

峠道(高台)

城角ため池

七箱ため池
貯水量 : 26.6千㎡
満水面積 : 0.7ha

※七箱ため池は 25m
プール(水深1.3m)
約 55杯分もの貯水量が
あります。
(25mプールの貯水量
約480㎡として換算)

城角ため池
貯水量 : 30.0千m³
溝水面積 : 1.0ha
※城角ため池は 25m
プール(水深1.3m)
約 63杯分もの貯水量が
あります。
(25mプールの貯水量
約480m³として換算)

※避難時の注意事項 簡条 (家族で避難時についての決め事などを事前に話しておきましょう)

1. 震度5強以上(目安)の地震時、または避難指示等がだされたら速やかに避難する。
2. 可能ならば、家に留まらずに高台を目指して避難する。
3. まわりの浸水状況に十分注意しながら落ち着いて避難する。
4. 避難経路については、事前に確認する。
- 5.
- 6.

電話連絡網（各自で記入してください）		※赤字：第一連絡先	
名前	電話番号	名前	電話番号
鹿島市役所 災害対策本部			
総務課 防災係	(0954)-63-2111		
鹿島警察署	63-1111		
鹿島消防署	63-1119		
わが家の防災メモ			
わが家の避難所：			
家族の集合場所：			
緊急時の連絡先：			
家族の名前	生年月日	血液型	電話番号
			会社・学校の電話番号

測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 3JHs 125

ため池ハザードマップ

城角ため池 七箱ため池

●ため池ハザードマップとは、ため池が決壊した場合の被害想定範囲を地図化したものです。ため池が決壊した場合に、被害を最小限に留めることを目的として作成しています。



城角ため池全景



七箱ため池全景

令和3年6月

鹿島市ため池ハザードマップに関するお問い合わせ



鹿島市役所（代） Tel 0954-63-2111
Fax 0954-63-2129
Tel 0954-63-3413
農林水産課農山漁村係 E-Mail norin@city.saga-kashima.lg.jp
災害対策本部（災害時のみ） Tel 0954-63-2111



※このハザードマップは、大規模地震により、満水状態のため池の堤体が、一気に基部まで破損し、貯留水が下流へ流出した場合を想定しています。

ため池
決壊想定
イメージ

1 大規模地震により堤防が破損

・・・亀裂や堤防前面の滑落など

2 大雨の増水により堤防が破損

・・・亀裂や堤防前面の滑落箇所からの漏水など

決壊地点直下の地域の建物や車は押し流される可能性があります。

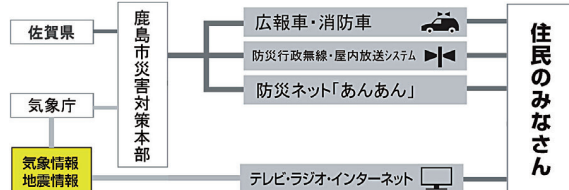
高台に避難してください！

市からの避難情報に注意しよう

●行動を促す避難情報には、緊急度に応じて3種類あります。

警戒レベル	避難情報等	避難行動等
レベル5	緊急安全確保	命の危険 ただちに安全確保
レベル4	避難指示	危険な場所から全員避難 →避難指示が発令されたら必ず避難
レベル3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 →高齢者等以外の人も、必要に応じ普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、自主的に避難

●避難情報は、下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。



地域防災力の向上に向けて

地震が必ず発生します。もしかすると、明日発生するかもしれません。この予想される大規模な被害に対応するためには、自助・共助・公助の取り組みとともに、地域の防災力を向上させていくことが重要です。

「災害を知る」「まちを知る」「人を知る」

■災害をイメージして、日常から自分で対策を考えることが大切です。

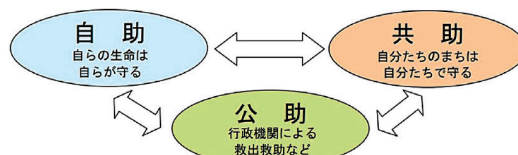
- 1. 災害を知る**
「どれくらいの規模で、どのような災害の発生が予想されるか」
- 2. まちを知る**
「災害時に安全な場所、危険な場所はどこにあるのか」
「何かあった場合にお世話になる場所や施設はどこにあるのか」
- 3. ひとを知る**
「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか」
「近所に手助けが必要な人はいるのか」



「自助」「共助」「公助」

■災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」連携が不可欠です。

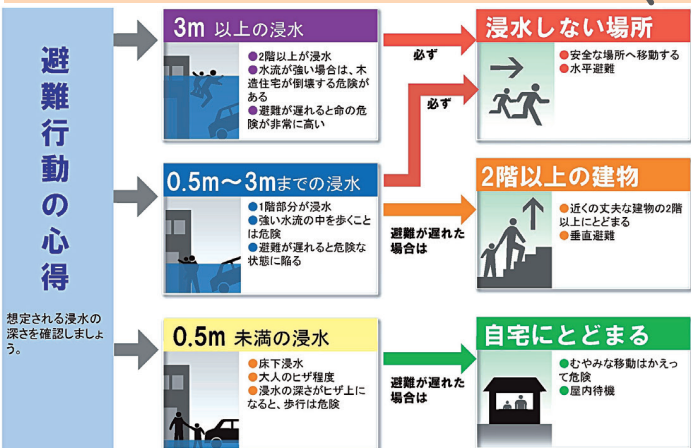
- 1. 自助**
「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。
- 2. 共助**
近所の人たちと協力して、お互いに助け合うこと。
- 3. 公助**
市役所・警察・消防といった行政機関が取り組むこと。



それぞれが、災害対応力を高め、連携することが重要

**地域防災力を高めることが、災害に強い地域を作る事に
つながり、一人でも多くの命を救うことにつながります。**

避難指示等がだされたら速やかに避難



～早期避難のススメ～

避難は、可能な限り浸水被害が発生する前に行ってください。ため池が決壊後の避難は危険ですので、注意してください

- 動きやすい服装で。
- 荷物は最小限。
- 2人以上での避難。



●足元に注意。



●避難は徒歩で。



●指示に従いましょう。



地震のあと

被災状況（防災無線の故障、広報車の通行不可、停電等）により、通常の手段を通じた情報の入手が困難になります。そのことを前提と考え、憶測やデマに惑わされず、冷静に事態に対応しましょう。



災害発生時の避難情報
入手における注意点

大雨のとき

大雨時は家屋内にいる場合が多く、防災無線・広報車の呼びかけが雨の音で聞こえにくい場合があります。テレビやラジオ、インターネットなどから、自主的な情報収集を心がけましょう。